

平成30年12月定例会 議会傍聴ダイジェスト

(予定)平成30年12月10日(月) 13時10分より

江西照康 持ち時間45分 一問一答方式

ケーブルテレビ生放送&インターネット生+録画は14日(金)



いよいよ12月定例会が開会しました。私が議員になり丸2年を終え、3回目の12月議会です。

私の質問は、地域の抱える問題であったり、市民の皆様から、「これは富山市おかしんじゃない？」と投げかけられた課題について、当局と折衝するも行き詰ったものや、市長に直接届けたい内容について行っています。

さて、今回の課題は、市街化調整区域の問題です。これは私が考える多くの問題の根本的な原因になっていると、常々思っているものです。

市街化区域と市街化調整区域の線引きは、富山県において昭和46年に初めて行われました。

以降、市街化調整区域から市街化区域への線引きはありますが、市街化区域から市街化調整区域への逆線引きはありません。よって現在市街化調整区域のエリアは、線引き当初より市街

12番 江西 照康



市議会 会派 自民党
副政調会長
総務文教委員会委員
議会改革検討調査会
副座長
議会運営委員会委員
政務活動費のあり方
検討委員会委員
都市計画審議会委員

その影響が出ないはずはありません。今からその原因を取り除くことは、もはや困難でしょう。しかし、この政策が与えた影響について、市長をはじめとする当局、私以外の議員についても、しっかりと認識してもらい、必要があれば、それらに対処する政策を打つことが当然であるとの認識を持ってもらいたいと考えています。

市街化調整区域とは市街化抑制区域

下図は市街化区域と市街化調整区域を分かりやすくまとめた表です。

9月議会において、私の市街化区域内の農地の質問に対する森市長の回答に「市街化調整区域に農地を持つ方が、分家住宅を建てる時に、自分の土地であるにも関わらず、ここはいいけど、ここはダメといった規制を受ける」というもの

	市街化区域	市街化調整区域
意義・目的	すでに市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域	市街化を抑制すべき区域
都市的投資	積極的に行う。	原則として行わない。
地域地区制	用途地域を定める。	原則として定めない。
都市施設	道路、公園、下水道等を一体的に定めるほか、学校、市場、住宅地、業務施設等を定める。	地域間連絡道路等を除き、原則として定めない。
市街地開発事業	積極的に行う。	原則として行わない。
開発行為	用途地域に適合し、一定の要件を具備する場合は許可する。	支障がないものまたはやむを得ないものなど、一定の要件に該当するものを除き、原則として許可しない。
農地転用	届出制	許可制

がありました。私の質問に対する否定的回答であったものの、私はその通りだと思っていたので、うれしく感じたものです。

そのような規制を受けてきた地域の課題解決に一石を投じたいと考えております。

市議会 会派 自民党
江西 照康
076-443-2152

議会質問は、ケーブルテレビとインターネットで生中継されます。インターネットでは、数日後録画もアップされます。バーコードをスマホで読み取っていただきご覧ください。

② 農道の維持補修について

この質問は、①番目の質問、市街化調整区域と政策についてに関連するものである。

農道という、無関係なものと感じる方も多いが、農道にも種類があるし、普通に生活道路として機能しているものも多い。問題は、誰がその維持管理をすべきかである。

農道は3種類

農道というと農作業に関係のない人にはまさに無関係な道路であると思われるかもしれないが、現実はそのではない。下図は、富山市の管理する農道と、土地改良区が管理する農道の、本数と距離を表すものである。市

が管理する農道は、大規模なものが多く、旧市内に11本ある。

私が問題だと思うのは、土地改良区が管理する農道であり、富山市全体で千キロを超えるのである。これらの道路は、例えば修繕する場合、土地改良区が窓口となり、半分の予算で、そして残りの半分を県、市、受益

地域名	市管理		土地改良区管理	
	路線数	延長(m)	路線数	延長(m)
富山	11	13,944	1,562	454,012
大沢野	116	52,122	245	109,406
大山	1	518	329	55,900
八尾	0	0	1,732	251,723
婦中	33	25,060	228	61,412
山田	3	1,377	336	124,676
細入	38	10,111	0	0
合計	202	103,132	4,432	1,057,129

者で負担するというところになってくるのである。ここでいう受益者は、道路の通行者ではなく農家

なのである。この写真はある農道の現状であり、誰かはわからないが、土をすくい上げて穴に埋め

る応急処置をしているが、ところどころに同様の破損がある。この道路の修繕総額は1億円を超える



③ 介護保険と高齢者福祉について

この質問は、時間がなくなり次回に持ち越す可能性があります。

平成12年度から始まった高齢者保健福祉計画は今年度より第7期を迎えている。これは平成37年度に(2025年)、団塊の世代が後期高齢者入りする、高齢化社会のピークを計画的に乗りきる為に3

力年毎に区切ったものである。

6期目の最終年度である昨年度、要支援者に対する給付に大きな制度変更があった。介護保険事業から市の総合事業への取組の変更である。

これにより、要支援者に対するサービスは市町村によって差が生じることになったが、基本的には給付が低下している。ある通所介護事業者の話によれば、要介護者と同様の入浴サービスなどを行うことが割に合わず困難であるという。

整備計画は未達

問 介護看護、小規模多機能型居宅介護、地域密着型介護老人福祉施設、看護小規模多機能型居宅介護に対し、手を上げる事業者が不足し、整備計画が未達となった。高齢化ピークはすぐそこまで迫っており、ここでの計画未達は残念である。

富山市の介護保険と高齢者福祉の専門部署ですら、ニーズを見誤る難しい環境である。そんな

また、6期目に整備するはずであった、夜間対応型訪問介護、小規模多機能型居宅介護、地域密着型介護老人福祉施設、看護小規模多機能型居宅介護に手を上げる事業者が少ないというのにはある意味当たり前のことではないだろうか。

市内には、通所介護事業所、所謂デイサービス事業所が約2百ヶ所あるが、この事業所数はここ3年ほど横這いである。しかし毎年10事業所以上の新規事業所があると考えると、廃業事業所も同数あると考えられる。

介護保険の事業は、行政の事業を民間が行うものであり、行政と業者の信頼が重要である。このことを当局にしっかりと提起しておきたい。

と見積もられており、農家の負担は2千万円になる。当然それだけの資金が用意できるわけではないので放置されているが、もともと農家の通行などはわずかであり、危険な目に合うのも、どちらかといえば通りすがりの人ではないだろうか。

市街化区域内は、町内を取り囲む道路は殆ど市道である。それに対し、調整区域の集落の周りには、生活道路としての機能を果たしているにも関わらず、農家負担が求められる農道があるのは、やはりおかしいと考えるのである。

市街化調整区域の線引きと影響

この図は現在の市街化区域の用途地域と市街化調整区域を表した総括図の中で、概ね旧富山市の部分を示すものである。色の着いているエリアは市街化区域の用途地域で、住居地域であるとか、商業地域であるとか、

か、建物が低層、高層の用途を色分けで表すものである。そして、色の塗られていないエリアが市街化調整区域である。北部に多いのが一目瞭然で、古くから街並を形成していた四方、岩瀬、

水橋などを除いてそれらを取り囲むように、寒江、倉垣、八幡、長岡、草島（金山新）豊田の一部、針原、浜黒崎、上条、三郷に広がっている。

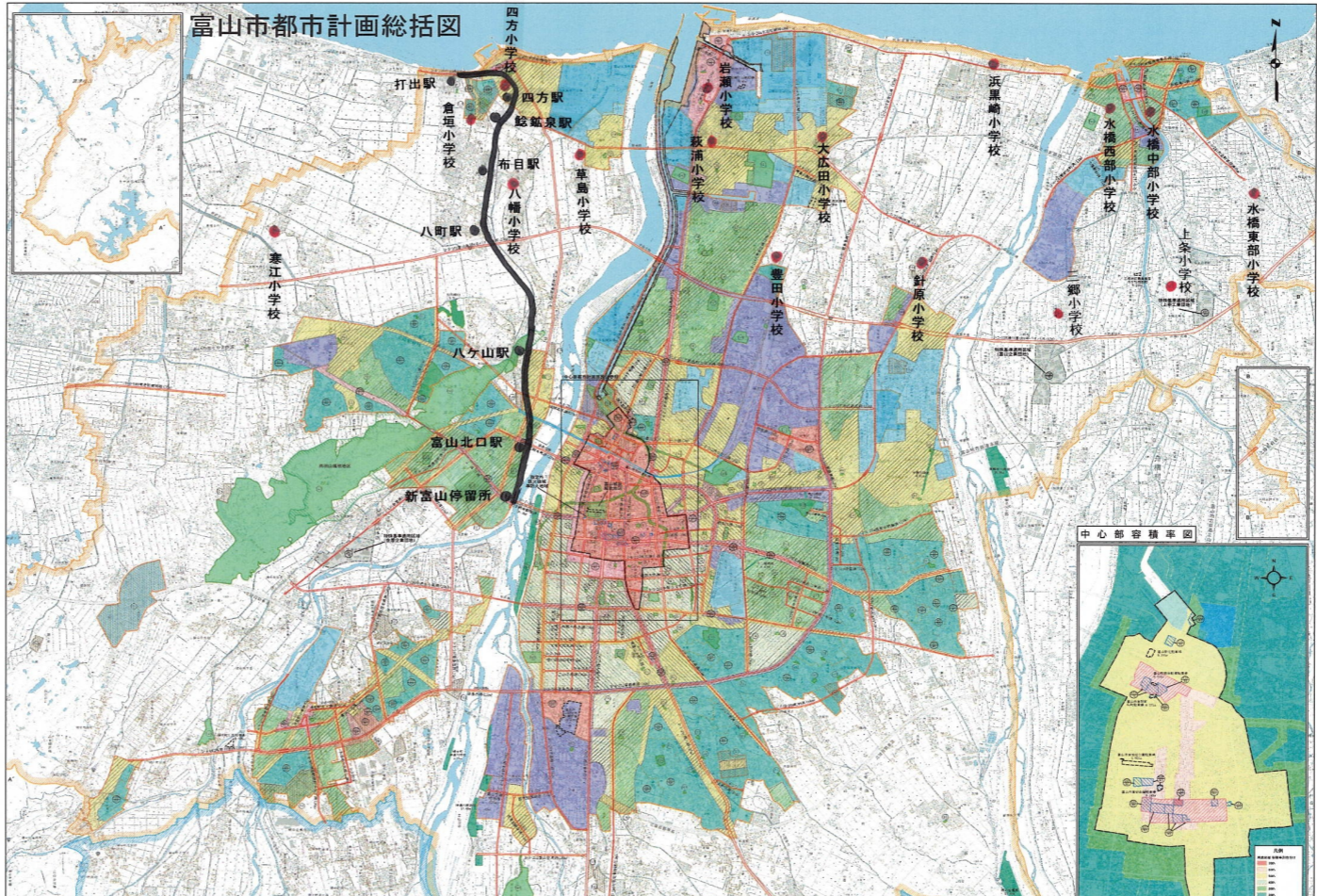
昭和46年決定 北側を中心に

この決定は、昭和46年に当初決定され、平成28年までの間に、5回の見直しで、約1割強の面積が、調整区域から市街化

区域に編入されたものの、現在の市街化調整区域は、約半世紀の間、市街化調整区域なのである。では、市街化調整区域にはいったいどんな問題があるのだろうか？

しかし市街化調整区域には家を建てるのが難しかったり、商工業を営むことも規制されるので発展しない。また、それが集中することにより、狭み込んだ市街化区域も引張られるように影響を受けてきた。

①市街化調整区域と政策について



小学校名	平成元年	平成30年	増減比率(平成30年/平成元年)
岩瀬小学校	388	112	29%
針原小学校	261	178	68%
浜黒崎小学校	305	93	30%
大広田小学校	759	374	49%
豊田小学校	1,035	749	72%
萩浦小学校	513	276	54%
四方小学校	263	172	65%
八幡小学校	207	94	45%
草島小学校	283	120	42%
倉垣小学校	222	192	86%
寒江小学校	151	85	56%
水橋中部小学校	450	152	34%
水橋西部小学校	331	166	50%
水橋東部小学校	203	59	29%
三郷小学校	366	141	39%
上条小学校	87	99	114%
上16校平均	364	191	52%
富山市45校合計	23,362	15,043	64%

平成30年5月1日現在

しかない。豊田小学校が数値を引き上げている。エリアの人口減少などの格差は更に加速度的に広がって行くのである。

公共施設や交通インフラの整備、修繕に当たり、時折、稼働率や受益者負担の話が出てくる。しかし、ここまで述べてきたとおり、政策によって人口減少や、商業施設の規制など多くのブレーキが掛けられてきたのであり、それらを度外視して語られるのはナンセンスである。

小学校の児童数が少ないのも、これらの政策の影響が大きい。富山市の行政が取り組むインフラこそ、調整区域を優先すべきなのである。その点を今回の質問でしっかりと、共通の認識として提起したい。

市長のビジョンは！

私は、コンパクトシティ政策に、違和感を持って議員になった。しかし、森市長の政策、行動を身近に見るにつけ、今は多くの点で賛同している。中心市街地の活性化ばかりに資金投入しているように思われるかもしれないが、実際には、公金投

入を起爆剤に、多くの民間企業を呼び込むことに成功し、数倍の効果を得た街づくりを行っている。また、多くの施策はそのものの趣旨以外の宣伝効果や、付帯効果を得ている。もし、何もしていなければ広く浅い範囲で今よりも充実した施策があったかもしれない。しかし、目立たぬ施策では、大きな人口減少の流れの中で、今頃はより悲観的な街づくりが進んだものと考えられる。

平成18年に廃線となった富山港線のライトレール化は今のところ、多くの市民にとって関係のない話かもしれないが、このポテンシャルは大きい。これは中心市街地対策とはまた別の話であり、射水線廃線の時に、森市長の行動力が生かされていれば、今とは違う富山市になっていたかもしれないと考えると驚かされる。さて、コンパクトシティ政策のビジョンは何度も聞いて、理解してきた。しかし、この市街化調整区域の政策により低迷してきた、北側エリアの未来ビジョンはどのようなものか、そのビジョンを確認したい。

調整区域を駆け抜けた射水線 昭和55年廃線

富山と新湊を結んでいた射水線は、昭和55年3月を持って廃線となった。

富山市史によると、廃止の意向は昭和54年5月16日に富山地方鉄道より正式申し入れされたものであり、なんとあつという間に廃線に至ってしまったものである。同年の7月には、代替バスの運行計画が提示され、廃線の合意に至ったわけであるが、その計画によれば、1日48本の運行計画（片道）があったはずである。現在は18本（路線が変更になっており一概には言えない）で見ると影もない。

さて、射水線の富山市内の駅は、ほぼ市街化調整区域内であり、右肩上がりの時代に、市街化が抑制されたエリアを継続運行する展望が見いだせなかったのも、仕方がなかったのかもしれない。

- 新富山停留所
- 富山北口駅
- 八ヶ山駅
- 八町駅
- 布目駅
- 鯉鉦泉駅
- 四方駅
- 打出駅